

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	胎児水腫などの原因となるヒトパルボウイルス B19 の調査研究 (日本国内におけるヒトパルボウイルス B19 抗原および抗体保有率に関する調査研究)
研究期間	2016 年 4 月 ～ 2019 年 3 月
研究機関名	札幌医科大学
研究責任者職氏名	准教授 要藤裕孝

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

伝染性紅斑の原因であるヒトパルボウイルスは、妊婦さんに感染した場合にお腹の中の赤ちゃんに胎児水腫を起こし、死産や流産となることがあります。それ以外にも、ヒトパルボウイルスは急性肝炎や急性脳症などの重篤な疾患に関係しているという報告も見られています。このウイルスは一生の間に一度しかかかるとされていますが、日本国内において、どの年代の人がどのくらいの割合でかかったことがあるか、またはかかかったことがないのかの調査がもう 20 年以上なされておられません。日本人が各年代でどのくらい感染する可能性があるのかを把握することが今回の研究の目的となります。また、血液中に存在するウイルスがいつの流行時期の感染であったのかも調べます。

例えば、ある年代の妊婦さんのパルボウイルス抗体保有率（過去にかかったことがある割合）が低ければ、伝染性紅斑の流行期には、より一層の注意喚起が必要になります。そのための基礎データとして、今回の研究は役立てることができます。

日本人の年代ごとのヒトパルボウイルス抗体保有率と抗原分析の結果を学会報告して、全国の産科や小児科医師が基礎情報として有効に活用してもらおうと考えています。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：検査残余血液（血清、血漿）

献血血液等の情報：年齢

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血時に採取された血液をサンプルとして、ヒトパルボウイルス IgG の抗体価を調べます。また、同様のサンプルよりウイルス DNA を抽出して、ウイルスの塩基配列を調べて、過去のどの時期の感染であったか照合します。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回ができます。

6 上記5を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

28J0054

本研究に関する問い合わせ先

所属	札幌医科大学小児科学講座
担当者	要藤裕孝
電話	011-611-2111（内線 3413）
Mail	yoto@sapmed.ac.jp